

第20回番組審議会議事録

- 1 . 開催年月日 平成 20 年 3 月 18 日(火) 午前 1 1 : 0 0 ~ 1 2 : 1 0
- 2 . 開催場所 箕面市船場東 2-5-47 COM 3 号館 5 階 COM 倶楽部会議室
- 3 . 委員の出席 委員総数 6 名
- 出席委員 5 名
- 出席委員の氏名 稲垣千秋、多仁淑子、上田義明
 小長谷有紀、小山緑
- 欠席委員の氏名 金井ピヤラット
- 放送事業者側出席氏名 尾池 良行（代表取締役）
 岡田 堅治（取締役総務部長）
 大平麻由美（編成課長）
 野間 耕平（編成課員）
- 4 . 議 題 1) 番組「みのたんらじお」について
- 2) 4 月からの番組編成について
- 5 . 議事の概要 稲垣委員長が議長となり、委員 5 名の審議となる。

6. 審議内容

1) 番組「みのたんらじお」平成 20 年 1 月 12 日放送分について

(1) 番組聴取

(2) 事務局より番組説明

インフォメーションセンターみのおたうん（箕面文化・交流センターみのおサンプラザ地下 1 階）より毎週土曜日午前 11:00～12:00 の 60 分公開生放送である。

箕面市提供の番組であり箕面市内の週末の催し紹介、箕面のキーワードである、自然・歴史・文化・観光の各分野のキーパーソンを週替りで招いてお話をうかがうコーナーを設け、第 1 週は箕面市立郷土資料館長、第 2 週目は箕面文化団体連絡会の皆さんに文化を、第 3 週は NPO みのお山麓保全委員会の委員に自然を、第 4 週は観光について箕面観光ボランティアガイドの皆さんに出演いただいている。

又、箕面市からのお知らせを広報誌「もみじだより」より広報している他に、放送中に会場の人にメッセージを書いてもらい随時紹介するほか、リスナーが持参するおすすめの CD も紹介している。

2006 年 8 月、箕面市が箕面文化・交流センターを新設オープンし多くの市民の来場・利用を促すために公開生放送を開始した。

各コーナーでは箕面の各分野のキーパーソンに協力いただくことで、豊富な知識と経験に裏打ちされた、箕面ならではの興味深い話を共有する時間を持つことができている。又夏休みには、子ども達に DJ 体験をしてもらうなど、公開生放送を活かした番組を展開している。

(3) 審議

稲垣委員長：番組審議会 20 回となりますが、本日は「みのたんらじお」について審議をお願いします。

小長谷委員：パーソナリティのテンポが早く軽快過ぎてゲスト 1 に対し 10 の割合で喋っておりこれでいいのと感じた。

BGMの音楽が合っていない。

多仁委員：ゲストのトークが入りづらい喋りである。

小山委員：取り上げるテーマが地味なので盛り上げる気持ちが強いのではないだろうか。又、重い番組なのでこのままではリスナーが離れるということでテンポを早くしているとも考えられる。

小長谷委員：土曜日の昼前の番組なので気分をアップするように心がけているのはわかるが、ゲストを大切にする雰囲気が必要であり、又ゲストに合わせることも考えれば良いのではないか。

稲垣委員長：番組で1番気にかけているのは何か。

事務局：市民が気楽に参加出来ること、通りがかりの人でも参加しようかと思う番組にしたいことである。

事前に予定しているゲストについては打合せや時間の配分が可能であるが、急な市民のゲストについては時間が限られているのでテンポが早くなることがある。

小長谷委員：それは分かるがほとんどパーソナリティが喋っているのが現状であり、急なゲストが参加すれば大事にし、時間を与えることが大切だと思う。

多仁委員：専門家であり仕事をしているのだから、もう少し基本的な訓練が必要でないかと思う。

小長谷委員：プロである以上飛び入りのシロウトさんでも、相手に合わせる技も身につける必要がある。

声はきれいだし喋りも口が回るし結構ではあるが、技に溺れて本当にしなければならぬことを忘れていると思う。情報を伝えることは必要だが人の心を伝えることも大切ではないか。

多仁委員：相手の方に参加した満足感を与えることが重要である。

上田委員：60分番組でテンポの早い番組・スローな番組とあって、それはいいのではないか。ゲストの方もスローな方・テンポの早い方もあり合わすのは大変だと思う。余り苦言を提するのは可愛

いそうである。

このパーソナリティの軽快な喋りが良いという人もいると思う。

小長谷委員：一方的に喋るのは、コミュニティ放送の使命ではないと思う。
主役は市民である。

事務局：60分番組ではメリハリをつけることが重要。情報については短い時間でテンポよく多くを伝えたり、ゲストがいる時はゆっくり喋ったりして対応することだと思う。

各委員：その通りです。そういう事です。

稲垣委員長：箕面市の提供で堅い番組になってしまうとリスナーが聞きづらいと思い、制作の方は気軽に軽快に聞いてもらうことをやっているなかで皆さんから色々ご意見を頂きありがとうございました。今後も継続していく番組であり、今回の意見を参考にして運び方を改善していき又内容をより充実しリスナーを増やせるように事務局をお願いします。

2) 4月からの番組編成について

事務局：基本的な姿勢は変わらず「いつもいざもタッキー」でやっていく。「いつも」については箕面の情報はタッキーに聞けば何でもわかる。「いざも」については非常時災害時の時には細やかな情報を発信出来る体制を確立する。

上田委員：「いざも」の時のタッキーの存在を市民に知らせるものはないのか。

事務局：緊急時にはラジオは必需品であることのアピールを常々からやっていること。又近畿コミュニティ放送24局は平成19年12月災害対策支援体制を相互間で協定する契約をかわしている。

尾池社長：そのことは一般市民は知らないなので市の広報誌に掲載し、コミュニティ放送局は緊急時災害時にはここまで相互支援体制をとっていることを至急広報する。

稲垣委員長：現在の番組、これからの番組について委員の皆様の忌憚のないご意見を頂戴しましたが、今後もより良い番組の制作をお願いしたい。これをもちまして審議会を終了いたします。

尾池社長：お疲れ様でした。現審議委員の皆さんには6～8年間委員をお願いしておりましたが、今回で解任ということでご了承いただきたい。長い間本当にご苦労様でした。又ご依頼することもあると思いますのでその節はよろしく願いいたします。

7．審議機関の答申または改善意見に対して措置および年月日

なし

8．審議機関の答申または意見の概要を公表した場所における公表内容、方法

自社放送
事務所への備置
商工会議所みのお（商工会議所月刊会報）
ホームページ（<http://fm.minoh.net/>）

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

平成 20 年 3 月 18 日

みのおコミュニティ放送株式会社

番組審議会